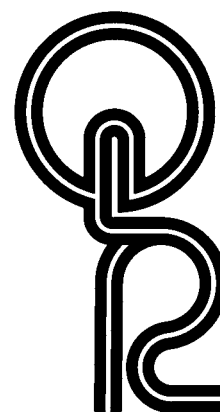


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 25 No.1, 2018



日本における本格的な貝塚研究の端緒となる大森貝塚を発見し、発掘調査を行ったエドワード・S・モース博士像（東京都品川区・大森貝塚遺跡庭園）

Vol. 25 No.1

February 1, 2018

2018年大会案内（第3報）..... 2	評議員会案内（再掲）..... 5
地球惑星科学連合大会案内（第2報）..... 2	TERPRO案内..... 6
ジオパークシンポジウム報告..... 3	第4回執行部会議事録..... 7
シンポジウム案内（再掲）..... 4	会員消息..... 7

◆日本第四紀学会 2018年大会案内 (第3報)

日本第四紀学会 2018年大会は、下記の日程で開催予定です。

開催期間：2018年8月24日(金)～8月28日(火)

開催場所：首都大学東京南大沢キャンパス 講堂・7号館スタジオ

日程：

8月24日(金) 一般研究発表(口頭およびポスター)・評議員会

8月25日(土) 一般研究発表(口頭およびポスター)・総会・各賞授賞式・懇親会

8月26日(日) 公開シンポジウム「自然環境と人類の将来予測に向けた第四紀学の最先端：各領域分野の最新動向とその共有・発展をめざして」

8月27・28日 巡検：伊豆諸島、新島を予定

*発表の申込方法などにつきましては次号以降の第四紀通信に掲載いたします。

◆日本地球惑星科学連合 2018年大会のお知らせ (第2報)

2018年5月20日(日)から5月24日(木)にかけて幕張メッセ(千葉県)で開催される日本地球惑星科学連合 2018年大会の発表投稿受付が1月10日(水)から2月19日(月)17:00まで行われております。投稿料が割引になる早期投稿の締め切りは2月5日(月)23:59です。第四紀学会では、「第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス」を単独で、「活断層と古地震」を共同提案で主催します。また、その他の第四紀学と関係する多数のセッションに共同提案母体となっております。下記に主な関連セッションを挙げておきますので、発表登録をどうぞよろしくお願い致します。

H-QR04：第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス (JJ、会場：A04)

口頭：5月20日(日) PM1、PM2

ポスター：5月20日(日) AM2、PM3

S-SS08：活断層と古地震 (EJ、会場：A07)

口頭：5月21日(月) PM2、5月22日(火) AM1、AM2、PM1

ポスター：5月22日(火) PM2、PM3

H-DS12：人間環境と災害リスク (JJ、会場：201B)

口頭：5月23日(水) PM1

ポスター：5月23日(水) PM2、PM3

H-CG25：デルタとエスチュアリー：複雑な河口システムの理解を目指して (EE、会場：102)

口頭：5月21日(月) AM2

ポスター：5月21日(月) PM1、PM3

M-IS12：ジオパーク (JJ、会場：103)

口頭：5月21日(月) AM1、AM2、PM1

ポスター：5月21日(月) PM2、PM3

U-06：連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？ (JJ、会場：コンベンションホール A)

口頭：5月23日(水) PM1、PM2

ポスター：5月23日(水) AM2、PM3

※それぞれの時間帯は以下のとおりです。

AM1：9:00-10:30、AM2：10:45-12:15

PM1：13:45-15:15、PM2：15:30-17:00、PM3：17:15-18:30

◆日本第四紀学会シンポジウム「ジオパークと学校教育」の報告

植木岳雪（千葉科学大学）

2017年12月16日（土）にお茶の水女子大学 共通一号館 301号室において、標記のシンポジウムが開催された。このシンポジウムの目的は、ジオパークにおける学校教育のあり方や具体的な取り組みの方法を議論して、ジオパークの活動のいっそうの充実を図り、学会としてジオパークを支援することである。そして、ジオパークにおける学校教育の取り組みに第四紀学的内容を取り入れることや、ジオパーク関係者が第四紀学会に入って活躍してもらうことを期待した。そのため、地学教育学会と日本ジオパークネットワークの後援を得て、シンポジウムを一般に公開とした。

本シンポジウムは以下の14の講演と総合討論からなり、9時30分から17時までの長丁場で行われた。まず、第四紀学、理科教育・ESD、地学教育、大学教育、ツーリズムとジオパークの関わりについて、5つの総論的な発表が行われた。次に、茨城県北、とちぎ鹿追、男鹿大潟、箱根、伊豆半島、室戸の各ジオパークと那須烏山ジオパーク構想における学校教育の取り組みについて、8つの事例発表が行われた。最後に、社会教育からみたジオパークについての発表が行われた（写真1）。

本シンポジウムの参加者は約70名であり、教室全体がほぼ埋まり、熱気があふれていた（写真2：途中で暖房を切るほどであった）。参加者はジオパーク関係者が多かったが、そのほかに大学、小・中・高校、博物館、研究所、企業の方々、個人など、非常に多様であった。しかし、第四紀学会の領域1から4に属する参加者は10人以下と少なかったのが残念であった。総合討論では、ジオパークが

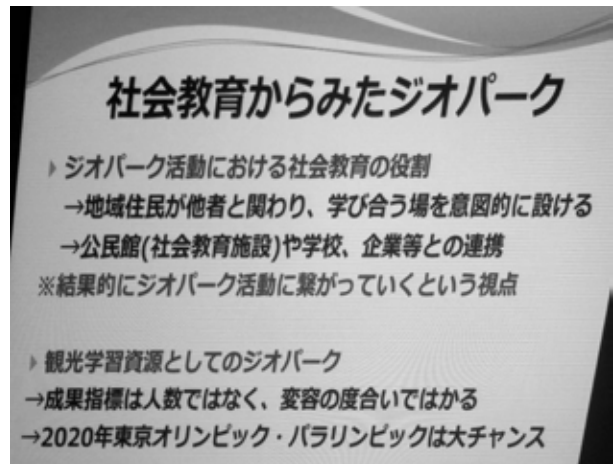


写真1 社会教育からみたジオパークの発表

ない地域にジオパークをつくるには、ジオパークをどのように学校教育に落とし込むか、ジオパークだからできる学校教育活動とは、ジオパークを学会としてどのように支援するかなどが、活発に議論された。その後、講演者を中心として23名が参加した懇親会では総合討論の続きと情報交換が行われ、大変盛況であった。

本シンポジウムは、領域5「現代社会に関わる第四紀学」による初めての活動であり、今後もジオパークに関するシンポジウムを年に1回程度開催する予定である。また、ジオパーク以外のテーマでもさまざまな活動を行っていきたいと考えているので、会員の皆様にはそれらに主体的な参加をお願いしたい。

写真2
シンポジウム会場の様子

◆日本第四紀学会主催シンポジウム（再掲）
「改めて問う“縄文海進”とは何か？－第四紀学的視点からの再検討－」のお知らせ

下記の内容で、日本第四紀学会主催のシンポジウムが行われます。参加費は無料で、事前登録の必要はありません。ふるってご参加下さい。また、当日午前中、同じ会場にて評議員会が開催されます。詳細は第四紀学会ホームページなどでお伝えします。

シンポジウム「改めて問う“縄文海進”とは何か？－第四紀学的視点からの再検討－」

[日 時] 2018年2月17日（土）13時～18時

[場 所] 明治大学・駿河台キャンパス・アカデミーコモン9階309B教室（JRお茶の水駅から徒歩3分）http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html

[趣 旨] “縄文海進”は、日本人には広く知られている言葉です。これは、縄文時代の貝塚の分布とその地形から知られる、現在の海岸線より内陸まで海が広がった現象に対して名付けられたものです。この現象が生じた原因はいったいどのようなものなのでしょうか？縄文時代には地球規模の温暖化が生じて極地の氷河が融解したために海面が上昇し、その後、再び寒冷化して極地の氷河が拡大して海面が下がったことで海進や海退が生じたと考えられる人が多くいます。しかし、地球規模の視点で考えると、必ずしもそうではないことがわかってきました。日本列島における“縄文海進”の海面変化やその正確な時代、この時期の温暖化の実態や原因、これらが自然環境やヒトの文化に与えた影響についても、まだまだ、たくさんの謎が残されているようです。このシンポジウムでは、地形や遺跡などで身近に知られてきた“縄文海進”をテーマに、考古学、地形学、地質学、氷河学、地球物理学、古生物学、古海洋学などの第四紀学の様々な分野の最新の知識を集めて、私たちが知っている、これまでの“縄文海進”のイメージや常識について、皆さんと一緒に考え直して、これからの課題を探ってみたいと思います。

[プログラム]

- ・開会の挨拶（齋藤文紀：日本第四紀学会会長・島根大学・産業技術総合研究所）
- ・趣旨説明（三浦英樹：国立極地研究所）
- ・“縄文海進”の研究史と用語・編年に関する諸問題（辻 誠一郎：東京大学）
- ・“縄文海進”の海域環境と人間活動（一木絵理：上高津貝塚ふるさと歴史の広場）
- ・“縄文海進”とその前後の北半球氷床・南極氷床の変動史と海水量（三浦英樹：国立極地研究所）
- ・縄文時代以降の海面変化を引き起こす様々な要因－ハイドロアイソスタシーの役割－（奥野淳一：国立極地研究所）
- ・晩氷期以降における落葉広葉樹林から常緑広葉樹林／スギ林への移行時期の地域的な相違（高原光：京都府立大）
- ・二枚貝の微細成長縞を用いた“縄文海進”期の高精度気候復元（宮地 鼓：国立アイヌ民族博物館設立準備室）
- ・“縄文海進”期における黒潮の水温と流路（池原 実：高知大）
- ・旧海面高度の復元と地震性地殻変動解読への応用、問題点（藤原 治：産業技術総合研究所）
- ・総合討論（司会：松浦秀治：日本第四紀学会副会長・国立科学博物館）
- ・閉会の挨拶（鈴木毅彦：日本第四紀学会副会長・首都大学東京）

[主 催]

日本第四紀学会

[共 催]

産業技術総合研究所 地質調査総合センター、情報・システム研究機構 国立極地研究所

[後 援]

文部科学省 科学研究費助成事業 新学術領域研究「熱－水－物質の巨大リザーバ：全球環境変動を駆動する南大洋・南極氷床」

[世話人]

三浦英樹（国立極地研究所）、奥野淳一（国立極地研究所）、藤原 治（産業技術総合研究所）、
松浦秀治（国立科学博物館）

[問い合わせ先] 日本第四紀学会事務局 E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com

((at) の部分をアットマーク @ に変えて下さい)

[参考になる文献・情報]

杉村 新（1973）『大地の動きを探る』岩波書店。

前田保夫（1980）『縄文の海と森』蒼樹書房。

齋藤文紀（1989）海進・海退、海水準変動と堆積相。堆積学研究会報、31号、49-54。

松島義章（2006）『貝が語る縄文海進—南関東、+2℃の世界』有隣新書。

横山祐典（2007）地球温暖化と海面上昇—氷床変動・海水準変動・地殻変動。日本第四紀学会・

町田 洋・岩田修二・小野 昭編『地球史が語る近未来の環境』、33-54、東京大学出版会。

齋藤文紀（2008）研究史から見た関東平野の沖積層。日本地質学会編『日本地方地質誌 3 関東地方』、
369-380、朝倉書店。

中田正夫・奥野淳一（2011）グレイシオハイドロアイソスタシー。地形、32巻、327-333。

工藤雄一郎（2012）『旧石器・縄文時代の環境文化史：高精度放射性炭素年代測定と考古学』新泉社。

遠藤邦彦（2017）『改訂版 日本の沖積層—未来と過去を結ぶ最新の地層—』富山堂インターナショナル。

日本第四紀学会 HP：だいやんき Q&A 「縄文海進の原因について。日本史教科書には温暖化で氷
河が溶けたためとあるのですが、氷河は主因ですか。」

<http://quaternary.jp/QA/answer/ans010.html>

◆ 2017 年度第 2 回評議員会開催案内（再掲）

下記の日程で、2017 年度第 2 回評議員会が開催されます。評議員および会長経験者の方には後日、
通知が送付されますが、名誉会員の方も評議員会に出席し、意見を述べることができますので、ご
検討ください。なお当日の午後には同じ会場で、シンポジウム「改めて問う“縄文海進”とは何か？
—第四紀学的視点からの再検討—」を開催致しますので、併せてご参加頂ければ幸いです。

日時：2018 年 2 月 17 日（土）10:00～12:00

場所：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン 9 階 309B 教室

議事（予定）：

- (1) 2017 年度上半期における活動報告および会計中間報告
- (2) 法務委員会の委員選出について
- (3) 名誉会員選考委員会の委員選出について
- (4) その他

◆ TERPRO 委員会関係の国際集会のご案内

INQUA の TERPRO 委員会における 2018 年の活動として、下記の国際集会が開催される予定です。関連分野のみなさまのご参加をお待ちしております。

1. PATA Days in Thessaloniki, Greece

【開催日・場所】

- ・ 2018 年 6 月 25 日～ 30 日、ギリシャ（テッサロニキ市）

【組織委員会】

- ・ Spyros Pavlides, Alex Chatzipetros

【事前スケジュール】

- ・ 未定

【参加登録費】

- ・ 未定

【その他】

- ・ 詳細な情報および参加登録申込方法につきましては、ウェブサイト「PALEOSEISMICITY.ORG」(<http://paleoseismicity.org/>) を参照して頂くか、TERPRO 副委員長の吾妻 (t-azuma(at)aist.go.jp) にお問合せ下さい。

2. 「バルト海南東部における未固結堆積物の変形と古地震に関する諸現象」

(Soft-sediment deformation structures and palaeoseismic phenomena in the South-eastern Baltic Region)

【開催日・場所】

- ・ 2018 年 9 月 17 日～ 21 日、リトアニアおよびラトビア西部

【主催】

- ・ Lithuanian Geological Survey, Geological Society of Lithuania, Adam Mickiewicz University in Poznań (Poland), Klaipėda University (Lithuania)

【組織委員会】

- ・ Jonas Satkūnas, Jolanta Čyžienė, Aldona Damušytė (Lithuanian Geological Survey), Małgorzata (Gosia) Pisarska-Jamroży (Adam Mickiewicz University in Poznań), Albertas Bitinas (Klaipėda University)

【事前スケジュール】

- ・ 参加登録および講演要旨投稿の開始 – 2018 年 2 月
- ・ 講演要旨投稿および参加登録費の締切 – 2018 年 4 月 30 日
- ・ 参加登録の最終締切 – 2018 年 6 月

【参加登録費】

- ・ 400 ユーロ（予定）

【その他】

- ・ 詳細な情報および参加登録申込方法につきましては、1st サーキュラー (http://mb49565.home.amu.edu.pl/wp-content/uploads/2017/06/Palaeoseismological-workshop-Lithuania-1st-circular_04_10_2017.docx) をダウンロードしてご確認するか、TERPRO 副委員長の吾妻 (t-azuma(at)aist.go.jp) にお問合せ下さい。

3. 氷期－間氷期移行：氷期後期－間氷期移行：フェノスカンジア南東部における氷河テクトニクス、地震活動、水理および景観の劇的な変化

(Lateglacial-interglacial transition: glaciotectonics, seismoactivity, catastrophic hydrographic and landscape change, South-Eastern Fennoscandia)

【開催日・場所】

- ・ 2018 年 8 月 19 日～ 26 日、ペトロザボーツク（カレリア共和国、ロシア）

【主催】

- ・ Geology and Northern Water Problems Institute (Karelia), Institute of Geography (Russia), Saint Peterburg State University (Russia), Lomonosov Moscow State University (Russia)

【組織委員会】

- ・ Dmitry Subetto, Sergey Svetov, Tatiana Shelekhova, Nadezhda Lavrova, Alexandr Makeev, Olga Druzhinina, Sergey Shavarev, Alexey Rusakov, Maksim Potakhin, Zakhar Slukovskii

【事前スケジュール】

- ・ 参加登録および講演要旨投稿の開始 – 2018 年 2 月
- ・ 講演要旨投稿および参加登録費の締切 – 2018 年 4 月 30 日
- ・ 参加登録の最終締切 – 2018 年 6 月

【参加登録費】

- ・ 400 ユーロ (予定)

【その他】

- ・ 詳細な情報および参加登録申込方法につきましては、組織委員会の Zakhar Slukovskii 氏 (slukovskii_z(at)igkrc.ru)、Dmitry Subetto 氏 (subetto(at)mail.ru)、もしくは TERPRO 副委員長の吾妻 (t-azuma(at)aist.go.jp) にお問合せ下さい。

◆日本第四紀学会 2017 年度第 4 回執行部会議事録

日時：2017 年 12 月 23 日 (土) 9:30 ~ 13:10

会場：首都大学東京秋葉原サテライトオフィス C 会議室

出席：齋藤文紀 (会長)、鈴木毅彦 (副会長)、松浦秀治 (副会長)、須貝俊彦 (領域 2)、青木かおり (領域 3・代理)、高原 光 (領域 4)、植木岳雪 (領域 5)、吾妻 崇 (庶務委員会)、三浦英樹 (会計委員会)、北村晃寿 (編集委員会)、百原 新 (広報委員会)、小荒井衛 (渉外委員会)、藤原 治 (行事委員会)、目代邦康 (オブザーバ)、永峯菜穂子 (事務局)

欠席：池原 研 (領域 1)

議事録：

- 1) 各委員会、領域から活動報告を行った。
- 2) 電磁的な方法による評議員会および執行部会の

議事録案を確認し、評議員会議事録案を一部修正したうえで評議員に確認を依頼することにした。

3) 2019 年大会の開催地の検討を行い、目代邦康会員から会場に関する説明を聞くとともに、学会からの要望事項と質問事項を伝えた。

4) 2 月に開催するミニシンポジウムの準備について検討した。

5) 2018 年名誉会員候補者選考委員会のメンバーについて検討した。

6) 地質地盤情報の法整備を考える会への組織加盟申請することを承認した。

7) 評議員会の議長代理の選出方法について審議した。

8) 次回の執行部会を 2018 年 3 月 5 日に開催することにした。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報委員長：百原 新 (arata(at)faculty.chiba-u.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。

奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 千葉大学大学院 園芸学研究科 百原 新
〒 271-8510 千葉県松戸市松戸 648 FAX : 047-308-8720

広報書記：那須浩郎・糸田千鶴・奥村公弥子・岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176